

笑顔の傘開いた

平和公園に世界の子どもたち

世界各国の子どもたちの笑顔をプリントした傘をさして、平和を訴える「メリー・アンブレラ・プロジェクト」が1日、広島市中区の平和記念公園で行われた。

原爆投下から65年となる6日を前に、アートディレクターの水谷孝次さん（59）が代表を務めるNPO「メリー・プロジェクト」が企画した。

水谷さんは約10年前から、「社会を良くするために、子どもたちの笑顔を広げたい」と、地震や津波の被害を受けた中国・四川省、インドネシア・バンダアチェなど26か国を巡り、約4万人の子どもの写真を撮影。大阪や上海などで同様の催しを行ってきた。

この日は大学生ら約150人が参加。原爆死没者慰霊碑で黙とうした後、約120本の傘を、慰霊碑や原爆ドームの前などで一斉に開いた。水谷さんは「原爆投下という絶望を味わった広島から、世界に平和を発信しよう」と参加者に呼び掛けた。

（2010年8月2日 読売新聞）

写真の拡大+



原爆死没者慰霊碑前で掲げられた、子どもたちの笑顔の傘（広島市中区で）